

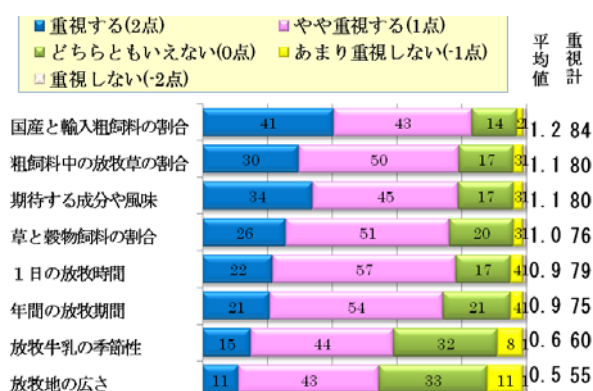
## 消費者が放牧牛乳に求めるものとは

資源循環型畜産である放牧畜産をより拡大するため、本年4月から(社)日本草地畜産種子協会において放牧畜産基準認証制度が運用されています。本認証制度は、放牧による畜産物の高付加価値化方策として期待されていますが、生産者の方々が本認証制度の活用や商品化を検討される際には、消費者ニーズを把握することが重要です。その参考にしていただくため、放牧牛乳に関するマーケティング調査結果の概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 調査会社が有する約8万人の女性パネルに調査協力を依頼し、牛乳を週に2L以上購入する既婚者で、予備調査の回答によりG1：食品への関心が高く、食べたい食品は通販等でも購入する者、G2：生協牛乳購入者、G3：プレミアム牛乳購入者、G4：一般牛乳購入者の4つのグループに分けました。それぞれの構成割合は8、31、19、42%でした。
2. 各グループから年齢構成が同様になるように100名を抽出し、放牧牛乳に関するマーケティング調査を実施しました。放牧牛乳の購入意向は、G1～G4で93、86、83、75%といずれも高い割合でした。購入希望価格は、G1～G4で254、244、246、229円でした。
3. 放牧牛乳の認証基準として適当な飼料の基準を尋ねたところ、「国産と輸入粗飼料の割合」は「国産だけ」を、「乳牛が食べている草の種類」は「牧草地に生えている青草が中心」を選ぶ人が50%以上と最も高く、国産粗飼料や放牧草を多く食べていることが重視されていました。
4. 放牧牛乳として認める牛乳を、放牧期間に生産された牛乳のみとするか、放牧期間中の放牧が十分であれば冬季の非放牧期間に生産された牛乳も含めるかについては、ほぼ同じ割合でした。
5. 放牧牛乳の認証基準において特に重視する項目は、「国産と輸入粗飼料の割合」、「乳牛が食べている粗飼料中の放牧草の割合」、「放牧牛乳に期待する成分や風味」でした(図)。

図. 放牧牛乳の認証において重視する項目



### ☆ 活用面での留意点

1. この調査結果は、平成19年2月に調査会社がインターネットを通じて実施した調査によって得られたものです。
2. 認証制度については、日本草地畜産種子協会(電話:03-3562-7032)にお問合わせください。
3. 調査の詳細については、畜産草地研究所・放牧管理研究チーム(電話0287-37-7809)にお問合わせください。

(農研機構 畜産草地研究所 放牧管理研究チーム チーム長 梅村恭子)